

東日本総合版

札幌支局
電話011(215)0467
仙台支局
電話022(223)1294
東京編集局
電話03(6667)1039
信越支局
電話025(288)5546
静岡支局
電話054(349)5556

廃油再生企業を子会社化

【東京】燃料油やアスファルトの販売事業を行う富士興産(東京都千代田区・保谷尚登社長)は、廃油を活用した重油の製造・販売など環境分野での事業領域拡大を進めている。今月、北海道で潤滑油の廃油をはじめとした産業廃棄物のリサイクル技術を持つ環境開発工業(北海道北広島市)を子会社化した。大野信一経営企画部長は「環境事業をグループ内の新たな柱に位置付け、将来の成長力を確保していきたい」と展望を語る。

富士興産

環境開発工業は事業所から収集した廃油や廃プラスチックを燃料につくりかえ、販売する事業に取り組んでいる。廃油はA重油と同等の性状を持つ「再生重油」に、廃プラスチックは「RPF」という固形燃料に再資源化している。

また石油関連では工場などにある「油水分離槽」の清掃や油の漏洩処理といった業務も手がける。大野氏は同社の事業について、廃

棄物の回収からリサイクル、販売までの過程を一貫してカバーしていることや、リサイクル品目の幅広さに特色があると指摘する。

今回の子会社化の背景にあるのはCO₂(二酸化炭素)排出削減をはじめとした企業や投資家の環境意識の高まりだ。大野氏は「リサイクルや再資源化のニーズが高まり、事業の成長が期待できる」と話す。また環境開発工業にとっては、グループへの加入を通じて資金調達や人材確

保の面でメリットが見込めるとする。

両社の地域的な営業基盤が重なることも相乗効果につながるとみられる。北海道ではグループの富士ホームエナジーが一般家庭向けに灯油やLPガスを販売するほか、軍士レンタルが建設機材のレンタル

事業を展開する。大野氏は「互いの取引先を確認しながら、顧客にとってよりよい環境対応の提案ができる」と期待する。

今後の事業展開に関しては、富士興産の札幌支店を中心に再生重油の販売や提案を想定する。将来的には取扱商品やリサイクル品目の拡大も視野に入れる。また顧客の灯油タンクで漏洩が発生した際の連携対応も考えられると語る。

当面の目標について大野氏は「既存の取引先や従業員に影響がないようなたちで、可能な限り早く企業文化

や業務の融合を進めた」としている。